

Doronko

子育てから世界は変わる。

Doronko group どんこ会グループ法人一覧

株式会社ゴーエスト

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階
TEL 03-5766-8060
FAX 03-5766-8061

株式会社日本福祉総合研究所

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階
TEL 03-5766-8070
FAX 03-5766-8071
一般労働者派遣事業 許可番号: 販13-304532

社会福祉法人どんこ会

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階
TEL 03-5766-8050
FAX 03-5766-8051

株式会社南魚沼生産組合

〒949-6416
新潟県南魚沼市大木六37
TEL 025-788-0840
FAX 025-788-0841

株式会社Doronko Agri

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階
TEL 03-4363-5651
FAX 03-5766-8061



社会福祉法人どんこ会(本社 運営部)は2016年4月1日
"保育サービス提供"でISO9001:2015の認証を受けました。
(認証登録番号:C2016-01073-R1)



EMS 771356 / ISO 14001

どんこ会グループの下記4施設は2022年10月28日に、
環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001:2015」の認証を受けました。
朝霞どんこ保育園(埼玉県朝霞市) / ふじみ野どんこ保育園(埼玉県ふじみ野市) /
メリー★ポピンズ エスバル仙台ルーム(宮城県仙台市) /
子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園(埼玉県さいたま市)



経験して、知る。
背中であ、教える。

Doronko コーポレートサイトはこちらから



新卒採用サイト



中途採用サイト



Doronko
どんこ会グループ

“子どものにんげん力”を育む 「私たち大人のにんげん力」

子どもたちにはいつも目をキラキラとさせて意欲ある顔をしてほしい。20代の頃に1園目の保育園をオープンして以来、ずっとそう願ってきた。これから先の人生で待っているであろうたくさんの試練に対し、そっぽを向いたりあきらめたりせず、まずは自分で切り拓き乗り越えてゆこうと思う気持ちを育んであげたい。私たち「子育て者」は、人生の一番はじめのこの人格形成期に子どもたちが獲得すべき“真に必要な直接体験”を、時代の変化と共にひたすら追求し続けなければならない。

自然の中に足を運び、“痛い、汚れるなどの体験”を通じて、命をはじめとするさまざまな環境を自ら認識し、太陽の下で自由に体を動かし、お腹が空いておいしいご飯を食べ、ぐっすりとする。意欲ある素敵な表情は、このプラスのサイクルから生まれてくるのだ。

さまざまな他者との“モノの取り合いなどのトラブル”を通じて、立場や特性や意見が異なる人が生活・遊び・労働を共にしていることを知る。折り合いをつける力は、この思うとおりにならない経験の積み重ねから後天的に身につけてゆくのだ。

そして、何よりも必要なのは、これらの“子どものにんげん力”を育む「私たち大人のにんげん力」である。生活と遊びは子ども自身が選択する。道具の使い方・遊び方・うた・広い社会での危険回避力・仕事・環境への意識は、私たち大人が背中から教える。大人が常に学び続け、自らの意思と判断のもとで全ての子をたくましく育ててゆく。

そんな日本を創りたい。



株式会社日本福祉総合研究所 代表取締役
社会福祉法人どろんこ会 理事長

安永 愛香



株式会社ゴーエスト 代表取締役
株式会社南魚沼生産組合 代表取締役
株式会社Doronko Agri 代表取締役

高堀 雄一郎

福祉、農業、酪農、林業、漁業…
子育て支援を中心に、地域を良くする。
日本を良くするために
私たちは挑戦を続けます。

急速に進むIT化、AI技術の進化、メタバース(仮想空間)の出現。私たちを取り巻く環境は激変しています。今後、人口減少も相まって、無くなる産業も確実に出てくるでしょう。

それでも人格形成に多大な影響を与える児童福祉領域は必ず残り、IT化が進む中で子どもたちの心を育む私たちの仕事の重要性はますます大きくなると確信しています。日本の未来を左右する可能性もある私たちの職務は、一生を懸けるに値する尊いものです。

子どもたちに必要な体験を私たち大人が本気で用意する。環境に恵まれていないからなど、できない理由を探すのではなく、率先し、工夫して実現する。にんげん力を育み、生き生きと前向きに歩む心を育むことが私たちの責務であり、やりがいです。

そして、必要な体験を考えたとき、私は日本の原風景を想像します。生活に必要な物がまとまっている風景。それは昭和までの農村部の風景かもしれません。生活のためにヤギや鶏を飼い、ふんが堆肥となり、畑や田んぼの肥料となる。化学肥料は使わずに安心な食料を自給する。燃料は山にある木から調達し自然と共存する。子どもたちに用意すべき環境や体験は、生きることに直結する一次産業が多いことに気づきます。

一方で一次産業の多くが後継者不足等の理由で廃業を余儀なくされており、大きな社会課題となっていますが、地域活性化の観点からも守り、後世につないでいくべきと考えています。子育て支援を中心に、子どもたちの人格形成のために、地域のために私たちは何ができるか？

地域や日本という広い視野で物事を考え、挑戦する職員集団、そんな風土を持った法人グループを目指します。



どろんこ会の歩み

1992	1998	1999	2003	2005	2007	2010	2013	2014	2015	2016	2018	2022
高堀と安永が大学在学中に、埼玉県志木市で学習塾の運営を開始。進学希望者のみならず、不登校や障害のある生徒など、さまざまな生徒の学習を支援。	有限会社ゴーエストを設立。(その後、株式会社へ組織変更) グループ第1号園「メリー★ホピンス」朝霞南ルーム(朝霞市家庭保育室)を開園。 保育業界で初のコンピテンシーを作成し運用開始。	朝霞市根岸台に百坪程度の農地を借りて、どろんこ農園開始。(当時はホピンス農園)	学童保育事業を開始。 新潟県南魚沼市にて3〜5歳児の田植え・稲刈り体験を開始。 本部を「メリー★ホピンス朝霞南ルーム」内に設置。	株式会社日本福祉総合研究所を設立。翌06年、グループ初の事業所内保育所受託運営を開始。 本部を「メリー★ホピンス」朝霞南ルーム」内に移転。	社会福祉法人どろんこ会を設立し、埼玉県朝霞市にグループ初となる認可保育園「朝霞どろんこ保育園」を開園。 本部を「朝霞どろんこ保育園」2階に移転。	本部を東京都渋谷区千駄ヶ谷に移転。	株式会社南魚沼生産組合を設立。 新潟県南魚沼市に田んぼを確保し、ライスセンターも建設。 植え付けから、収穫・精米・発送まで給食米の完全自給自足を実現。	グループ初となる児童発達支援事業所「つむぎ 荻窪ルーム」を東京都杉並区に開所。	全国に先駆けたインクルーシブ保育モデルの展開を開始。 認可保育園と児童発達支援事業所の子どもたちが共に生活する併設施設「駒沢どろんこ保育園」と「つむぎ 駒沢ルーム」を開所。	本部を東京都渋谷区渋谷に移転。	グループ初となる児童発達支援センター「子ども発達支援センター つむぎ 浦和美園」を開所。	就労支援事業を開始。 児童発達支援・放課後等デイサービス・就労継続支援B型の併設施設「つむぎ 武蔵野ルーム」を開所。 給食用有機野菜の生産を行う株式会社Doronko Agriを設立。

人も食も仕事も循環し、
全ての人が「生きる力」をもって、
よく生きられる社会を創る。

創業時からの25年間、子育てにおいて「インクルージョン」をキーワードに、障害の有無にかかわらず「混ざる」「ジブンで選択する、自己決定する」ことを大事にした事業を展開してきました。
次は、保育や支援の現場でも健常者・障害者が共に働く未来を創るため、グループ内で調理や用務、農業スタッフとして就職できるように、農業と就労支援事業をスタート。農業では減農薬や有機農法で米や野菜を生産して給食食材を自給自足し、その給食残渣とヤギや鶏のふんを活用した有機肥料集合プラントを建設することで食の循環も実現します。
人も食も仕事も循環させることで、0歳から人生を終えるその時まで、全ての人が「生きる力」をもってよく生きられる社会を創ります。



※園長大学®は株式会社日本福祉総合研究所の登録商標です。

BUSINESS 01

認定こども園・認可保育園・学童保育などの運営

株式会社ゴーエースト
株式会社日本福祉総合研究所
社会福祉法人どろんこ会



認定こども園、認可保育園、学童保育をはじめとする子育て支援事業を全国で展開

認定こども園、認可保育園、東京都認証保育所、院内・事業所内保育所、学童保育、病後児保育室、地域子育て支援センターの運営、一時預かり事業を実施。株式会社、社会福祉法人のもつそれぞれのメリットを生かしながら、全ての施設において同じ理念、子育て方針を掲げ、運営しています。畑仕事、ヤギ、鶏の世話、雑巾がけ、銭湯でお風呂の日。私たちは子どもたちにとって真に必要な体験を追求し、「にんげん力」を育みます。

共通理念のもと、広々とした園庭のある施設から駅ビル内の施設まで各地の個性を生かした子育て環境を実現

広々とした園庭に棚田のある園、雑木林を生かした園、閑静な住宅街にもかかわらずどろんこ遊びや畑仕事ができる園庭のある園がある一方、駅ビル内という抜群のアクセスながら屋上の園庭で思い切りどろんこ遊びのできる園など、それぞれの土地の特徴、地域性に合わせた施設整備を行っています。たとえ環境が異なっても「今、子どもたちに必要なことは何か」、「どんな環境や経験が成長につながるか」を本気で考え実践するスタッフの創意工夫こそが、子どもたちの「にんげん力」を育みます。



万博公園どろんこ保育園



GOOD DESIGN 2018年受賞

一宮どろんこ保育園



JR駅ビル内保育園

メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム



子育て支援センター ちきんえつく

駒沢どろんこ保育園

BUSINESS 02

発達支援

社会福祉法人どろんこ会



「今、この課題ができればいい」ではなく、子どもたちの未来を見据えた「生きる力」を獲得する発達支援

児童発達支援センター・事業所および放課後等デイサービス「つむぎ」では、「今、この課題ができればいい」ではなく、子どもたちの学齢期、さらには大人になった時を見据えた「生きる力」を獲得する支援を行います。子どもたちが「やりたいこと」を選ぶ環境を創り、見る力・考える力・運動機能・感覚機能を育むために戸外活動を積極的に行っています。そして10より100の経験をできるように、発達支援のスペシャリストが個々に合わせた効果的なプログラムを提供しています。

障害の有無で子育てを分けない
インクルーシブ保育を推進する
どろんこ会グループの多機能型発達支援

障害児・者を「守る・分ける福祉」から「ジブンで選ぶ・社会を生きる福祉」へと変えるために立ち上げたのが「つむぎ」です。駅近でアクセスのよいビルのワンフロアで運営するテナント型の児童発達支援事業所を皮切りに、兄弟姉妹が暮らす大きな木のおうちを彷彿とさせる子ども発達支援センター、さらに認可保育園との併設型、放課後等デイサービスや就労支援を備えた多機能型と、インクルーシブ保育を推進、発展させています。



子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園



テナント型事業所

つむぎ 荻窪ルーム



認可保育園×発達支援

宮下どろんこ保育園×つむぎ 宮下ルーム



発達支援×放課後等デイサービス

つむぎ 生田ルーム

BUSINESS
03

就労支援

社会福祉法人 どんご会



「守る・分ける福祉」から
「ジブンで選ぶ・社会を生きる福祉」へ
農福連携で人生の選択肢を広げていく

就労支援「つむぎ」が目指すのは、誰もが自分が選んだ場所で家族や友人と暮らし、自分が選んだ仕事に就いて、自分自身の人生をよく生きるため、就労や社会参画の場も創り、従来の「守る・分ける福祉」から「ジブンで選ぶ・社会を生きる福祉」へと変えていくことです。グループ内の法人の連携を活用し、農業への従事、保育園での調理、カフェでの販売など、「こなす作業」を割り当てるのではなく、自分の「仕事」を持つ「職業人」として働ける場を創っていきます。

BUSINESS
04

米・野菜の生産・販売

株式会社南魚沼生産組合
株式会社 Doronko Agri

給食米の完全自給自足を実現
次は減農薬・無農薬野菜の栽培と提供に挑戦

食への意欲を育み、田植え・稲刈りといった直接体験を通じて食の循環を学べるよう、新潟県南魚沼市に田んぼを確保し、ライスセンターも建設しました。今では給食米の完全自給自足を実現しています。また同市では耕作放棄地を引き継ぎ、地域の農業維持にも貢献しています。米作りにおいては子どもの食の安全を確保するため減農薬栽培に挑戦。野菜も同様に栽培するため株式会社 Doronko Agri も設立し、関東近郊の農地を中心に土地の確保を進めています。

BUSINESS
05

保育事業コンサルティング

株式会社日本福祉総合研究所



主な事業内容①

子育て支援施設の民営化に伴う開設・運営、
街づくりや土地活用等のコンサルティング

株式会社日本福祉総合研究所では、どんご会グループのシナジーを生かした子育てを基点とする街づくりや土地活用のコンサルティング、公立保育所の民営化、認可保育所と児童発達支援事業所の多機能型モデルの提案などの実績が多数あります。

【事例】

- 東京都東大和市に全国でも例の少ない「認可保育所×児童発達支援センター」の多機能型インクルーブ施設の整備を提案し、協定を締結。
- 東京都目黒区、千葉県君津市、新潟県南魚沼市など自治体初の民営化を実践。
- JR川崎駅「アトレ川崎」、JR仙台駅「エス・レ仙台」など駅ビルや商業施設での開設も多数。



主な事業内容②

院内・事業所内保育所の
開設コンサルティング・受託運営

豊富な運営実績とノウハウに基づいた柔軟な保育サービスの提供と、企業力強化につながる保育所開設のコンサルティングを行っています。

【主な取引先】

株式会社ブリヂストン | 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) | ヒューリック株式会社 | 株式会社セブン-イレブン・ジャパン | 株式会社ビックカメラ | エスピー食品株式会社 | 神奈川県立がんセンター など多数

BUSINESS
06

学び事業

株式会社ゴーエスト
株式会社日本福祉総合研究所
社会福祉法人 どんご会

主な事業内容①

保育の質を高めるために
スタッフ同士が教え合い、学び合う土壌を創る

どんご会グループでは受け身ではなく能動的な学びを大切にしています。園内・外部研修のほか、スタッフ各々が専門知識や得意をシェアして皆の力にする社内講座を開催。年齢や役職に関係なくスタッフ同士が教え合い、学びを深める機会を創っています。さらに海外で学ぶ「デンマークインターンシップ研修」も設け、保育の質の向上を目指します。



主な事業内容②

日本の保育を更新する園長大学®・保育士大学を開校
保育士等キャリアアップ研修の実施

教育の在り方が変わりゆく今、旧態依然な保育業界を更新するため、全国の園長・保育士向けに「事業計画・採用面接・会議運営・職員育成など園長に不可欠な研修」「保育士として手に入れたいゼネラル・スペシャルスキルを得るための研修」「新たな教育を理解し行動変容につなげる研修」「生きる力ある園長・保育士であり続けるための幅広い研修」を提供します。

にんげん力。育てます。

「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し、
“自分で考え、行動する思考”を育み、
若者が「0を1に変える力」で課題や困難に向き合うたくましい未来を創ります。

私たちは、言うことを聞く子を育てるのでも、指示を待つ子を育てるのでもありません。
私たちは、困ること・思うようにならないことがあれば、人に尋ね、自分で考え、周りと相談して行動してゆくように支援します。
子どもを言葉で動かさない。大人が指示しない。
大きな家を自由に行き来し、兄弟姉妹が生活・遊び・労働を教え合う。
環境を構成し、材料を配置して、乳幼児期に経験しておくといふと良いであろう機会を10よりも100創る。
それが私たち、どろんこ会グループの子育てです。

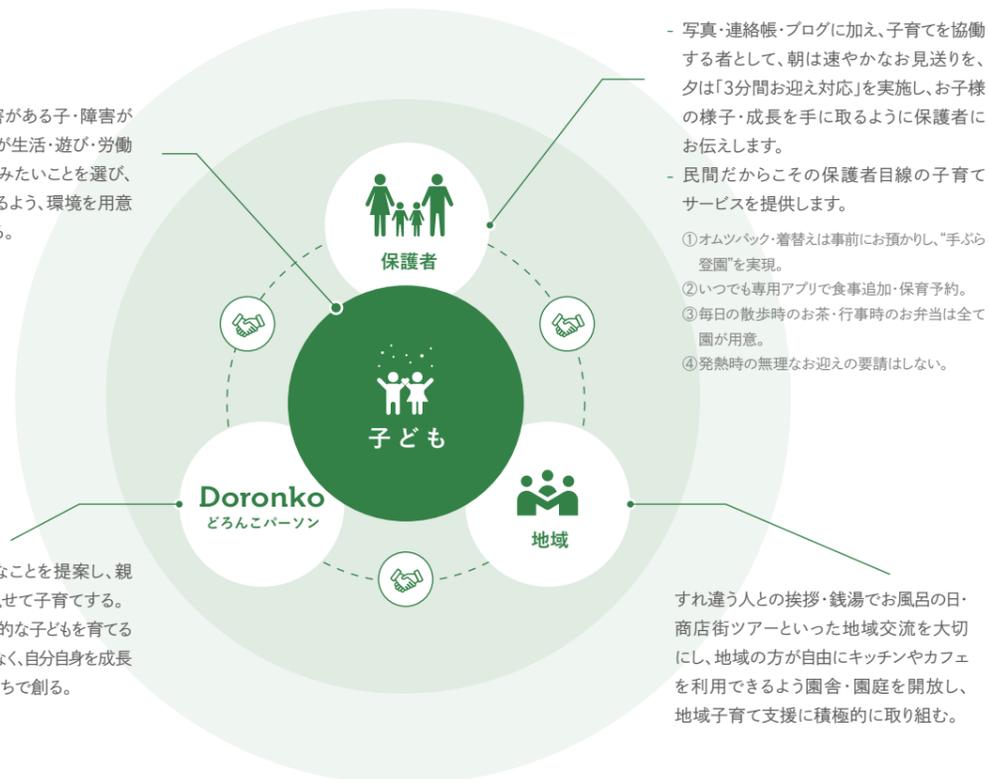
センス・オブ・ワンダー

子どもが“畑仕事・稲刈り・ヤギや鶏の世話などの労働”や、“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気づくことができるように、10よりも100の経験の機会を創り、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。

人対人コミュニケーション

園外では「すれ違ったすべての人」と挨拶を交わすことを園の約束としています。銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。

全ての大人が、障害がある子・障害がない子・幼児・乳児が生活・遊び・労働を教え合い、やってみたいことを選び、日々を暮らしていけるよう、環境を用意し、見守り、支援する。



- 7:00 順次登園
園庭遊び・自由遊び
- 8:15 水分補給・午前補食・排泄
さくらさくらんぼリズム体操・うた
- 8:30 座禅・雑巾がけ
- 9:00 泥遊び・自然体験開始／散歩出発
畑仕事・生き物のふんの始末や
小屋掃除・裸足保育
途中、水分補給
- 11:45 0・1・2歳児順次昼食開始
／縁側給食
水分補給
着替え・歯磨き
- 12:15 3・4・5歳児昼食開始
／縁側給食
水分補給
着替え・歯磨き
- 12:30 0・1・2歳児午睡
- 13:00 3・4・5歳児午睡
- 14:30 起床・排泄・手洗い
- 15:00 おやつ・水分補給
- 15:25 午後の活動／外遊び・散歩
- 日没 室内活動へ
- 18:30 片付け・水分補給・排泄
- 19:00 夕食

「生きる力」を育む デイリープログラム

人生のはじめの人格形成期・性格形成期に リアルな経験を通じて生きる力を育む

「遊び」「生活」は、子ども自らが関わり選択できる環境を構成します。
就学に向けた「体力作り」「広い社会での危険回避力」「社会生活との関わり」「自分の仕事をする」「発表力・伝達力・傾聴力」「文字や数字の活用」「環境への意識」などは、大人が背中を見せ一緒に行き指導します。



座禅



雑巾がけ



さくらさくらんぼリズム体操



ヤギ・鶏の小屋掃除・ふんの始末



畑仕事



裸足保育



縁側給食



商店街ツアー



銭湯でお風呂の日

異年齢保育・ インクルーシブ保育

年齢の違いや障害の有無に関係なく 全ての子が頼り合い、ぶつかり合い、教え合い、 共に暮らす保育

年齢が違う子同士、障害の有無関係なく、どの子もやってみたいこと・思いどおりにならないこと、全て実際に経験します。
私たちは、0～5歳児が共に暮らし、頼りたい相手・遊びたい相手・遊びたい場所を子ども自らが選択し、行動できるようにするために“ゾーン保育”を実施しています。また、認可保育園と発達支援つむぎの併設施設では子どもたちは共に活動しながら、発達支援の専門士がつむぎ利用児童一人ひとりの発達状態に応じたきめ細かな支援も行っています。





Doronko Person
01
2023年度 新卒入社
保育士
中島 舜

仕事の悩みやプライベートの話もできる
仲間がいると心強いです

■ どんこ会への入社を決め手を教えてください。

園庭で泥だらけになりながら遊んでいる子どもの写真が印象的で興味を持ちました。「にんげん力。育てます。」という理念に共感し、自ら考え行動しエネルギーにあふれているスタッフの姿を見て、自分自身が成長したいイメージと重なり、やりたいことが実現できるのではないかと思います。入社を決めました。学生時代に経験した食育・原体験と、子どもと触れ合う環境面の両立ができるのがどんこ会だと思ったことも大きいです。

■ 入社して感じたこと、学んだことを教えてください。

年齢が違う子どもたち同士で教え合ったり、学び合ったりできる環境が素敵だなと感じました。最初は、子どもが危ないことをした際やけんかをしてしまう場面で、子どもにどのような言葉をかけたらよいか分からず、子どもに答えを教える形で言葉をかけていました。しかし、子どもたち自身で解決できるように、子どもが自分で考え、選択できるようにすることが大事だと指導していただき、自身の学びにつながりました。



■ 自分の強みを教えてください。

相撲や鬼ごっこなど、ダイナミックな遊びができることが強みです。

またこれは自身の考えですが、送迎がお父様の場合、男性保育士がいることでコミュニケーションが取りやすくなり、来園しやすい雰囲気を作れるのではないかと思います。

お父様に限らずですが、保護者とのコミュニケーションを積極的に行っています。

■ 同期や他園のスタッフとの関わりはありますか？

同期とのつながりも強いです。自園に同期はいないのですが、研修やプライベートなどで関わることも多く、休日に食事に行くこともあります。仕事の悩みやプライベートの話もできる仲間がいると心強いです。

どんこ会グループは、自身が望めばさまざまな研修に参加できます。研修に参加することで、他園のスタッフとの交流ができ関係性が広がります。

毎日の給食で食べるお米がつくられている新潟県南魚沼市の田んぼで行う農業研修があり、そこでも多くのつながりができました。後日園を訪問したり、保育のアドバイスをもらったりと、他園のスタッフにも支えられています。

また、理事長・代表と直接話す機会もありモチベーションアップにつながりました。



Doronko Person
02
2021年度 新卒入社
保育士
鈴木 優花

やりたいことに挑戦できる環境に
やりがいを感じています

■ どんこ会への入社を決め手を教えてください。

園見学で畑仕事を体験した際に、スタッフだけでなく子どもたちも一緒になって労働している姿、中でも幼児が乳児に教えてあげている異年齢の関わりを見て驚いたことが今でも印象に残っています。

自然に囲まれた中で育った私にとっては、緑にあふれた園庭や縁側給食など、他の法人にはない魅力を感じ、このような環境で働きたいと思ったことがきっかけです。

■ 関東での就職に不安はありましたか？

福島県出身で大学進学を機に上京しました。卒業後は関東での就職を第一に考えていましたが、地元に戻る選択肢もありました。両親が「自分の働きたい場所で頑張らなさい」と背中を押してくれたので、関東での就職を決めました。

法人の一人暮らしサポート制度が充実しているため、不安なく決意することができました。一人暮らしをしている先輩や同期が近くにいることも安心につながりました。有給休暇も取得しやすく、年に数回は地元に戻ってリフレッシュしています。



■ どんこ会だからこそ感じるやりがいを教えてください。

子どもも大人も全力で遊ぶことができる環境に魅力を感じています。スタッフが遊びを作って提供するのではなく、子どもたちが自ら考えて遊びを作っている中と一緒に楽しむことができるため、つい大人の方が全力で楽しんでいることもあります。

ただ遊ぶだけでなく、例えば絵の具を使った色水遊びでは、「この色とこの色を混ぜたらこんな色になるんだ」というように、遊びの中でも学ぶことができるよう日々工夫をしています。

また、提案したことに対して背中を押してくれるスタッフばかりで、やりたいことに挑戦、実現できる環境にもやりがいを感じています。

■ 今後の目標を教えてください。

自分のことだけでなく常に周りを見て困ったときには寄り添ってくれる、自園の先輩みたいな保育士になりたいと思っています。そのためには子どもたちやスタッフを日頃からよく見て、積極的に話しかけることを心がけていきたいです。

また、自分で考えて動くことを大事にしつつ、周囲の意見を聞きながら良いと思ったことはどんどん吸収したいと思っています。

他園に行って経験を積むことや、さまざまな資格を取ることで新しい知識を身につけ、子どもたちの体験の機会をもっと豊かにするための引き出しを増やしていきたいです。



Doronko Person
03

2012年度 中途入社
施設長
宮澤 叙栄

保育って楽しい!と思えるような
環境作りを心がけています

■ 施設長として日頃から心がけていることを教えてください。

保育って楽しい!とスタッフが思えるような環境作りを心がけています。

日頃から、子どもたちの成長について、スタッフと話す時間をたくさん設けるようにしています。会話を通じて、スタッフが新しい発見をすることができ、子どものために何ができるかを自分で考えることがスタッフのモチベーションアップにつながると考えています。

上からの指示ではなく、自分で気が付いてやってみようと思えることで、保育を楽しんでもらいたいです。

■ 園の自慢を教えてください!

たくさんありますが、前向きでパワフルなスタッフが一番の自慢です。失敗を恐れずに何でもやってみる、たくましいスタッフたちです。もちろん大変なこともあります。ネガティブにならず、励まし合いながら失敗も楽しんでいる様子を見ると、頼もしく思います。

また、園には支援が必要な子どももいますが、手がかかる子、大変な子という捉え方をせずに、その子を肯定し成長を見守っている姿を見ると、常に前向きに保育をしていると感じます。



■ 悩んでいるスタッフにはどのようなサポートをしていますか?

まずはスタッフの話を聞き、何につまずいているのかを探り、解決策を教えるのではなく、自分で問題を乗り越えられるようなサポートをしています。例えば、行動の意図を聞いたり、何を感じたか問いかけることで自分の中で答えを見つけてほしいと思っています。

また、悩むことも成長につながると思うので、たくさん悩んで考えてほしいと伝えています。それでも悩むスタッフには、先輩から声をかけてもらうようお願いしています。親身に話を聞いてくれる先輩ばかりなので、安心して任せられます。



■ どろんこ会を目指す方へメッセージをお願いします。

どろんこ会グループにはいろいろなスタッフがいます。リーダーシップを発揮することが得意な人もいれば、自分のことを発信することが苦手な人、好奇心旺盛で何でもチャレンジしたい人や、慎重に物事を進めていきたい人もいます。いろいろな人がいるからこそ良い組織、良い園ができると思っています。どろんこ会グループで、自分にしかない強みを伸ばしながら一緒に頑張っていきましょう!



Doronko Person
04

2018年度 新卒入社
栄養士
阿部 佑菜

食べる意欲を育むことが
どろんこ会グループの食育です

■ 保育園で働く栄養士を目指した理由を教えてください。

高校卒業時に進路を決める際、食について専門的に学びたいと考え、栄養学を学べる学校へ進学しました。就職活動の際に、資格を生かしながら働ける場を探している中で、もともと保育士を目指していたこともあり、保育園で働きたいと思いました。

■ 働くやりがいを教えてください。

自分の作った給食を、子どもたちがおいしそうに食べてくれる時間を共に過ごす時に、やりがいを感ずます。毎日子どもたちと一緒に給食を食べるのですが、子どもたちがおいしそうに食べている様子を見るとうれしく思います。給食の時間に、その日の活動の様子を聞くことが毎日の楽しみです。

■ 園で行っている食育の取り組みについて教えてください。

毎週子どもたちと一緒に給食の準備をする時間を設けており、野菜をちぎったり、米をといだりしています。一緒に給食を食べている時に、自分で下処理をした野菜を見つけると、うれしそうに教えてくれます。先日、1歳児の保護者の方が「家で教えていないのに玉ねぎの皮をむいていた」とお話ししてくださり、園で日々野菜に触れているからこそその行動だと感じました。

食育を特別な活動と捉えるのではなく、食べる意欲を育むために、日頃から子どもたちに食に触れてもらうことを大切にしています。



■ 印象に残っているエピソードを教えてください。

先日、茨城県内の系列園5園合同で「収穫祭」という行事を行い、各園で収穫した野菜を持ち寄り、芋煮を皆で作り食べました。そこで5歳の子どもたちに園で飼っていた鶏をさばく様子を見せたのですが、その時の子どもたちの真剣な様子が印象に残っています。

翌日の給食の際に、5歳児が下の年齢の子に鶏をさばく様子や命の大切さについて教えていました。普段から給食の時間は、楽しく意欲的に食べることを大切にしているのですが、子どもたちに完食を強いることはしていないのですが、言葉では伝えることができない、実体験のみ得られる何かがあったのだと感じました。直接体験を大事にしているどろんこ会ならではの取り組みだと思います。